

小規模多機能型居宅介護事業所及び認知症対応型共同生活介護の自己評価票

(網掛け部分は外部評価の調査項目)

福岡県 グループホーム いいもり

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	I 理念に基づく運営 1. 理念の共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	毎朝の朝礼で全員で理念を唱和しカンファレンスで日常的に従業者に説明を行っている。	○	地域の交流が少ないので地域の事を考えた理念を考えていきたい。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝の唱和とケアカンファレンスで理念に基づいたケアを行っているか確認している。		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	ご家族へは契約時に十分説明し玄関の見えやすい所に掲示している。 地域へは飯盛会の広報誌「山鳩」を発行し公民館や老人会に配布している。	○	職員、入居者の方が地域の行事に参加出来るように取り組んでいきたい
	2. 地域との支え合い			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	入居者との散歩時に近隣の人にあいさつをしたり玄関にアンティークの金魚鉢や手作りの表札を配し雰囲気作りに努めている。	○	病院の併設なのでなかなか気軽に立ち寄ってもらえないので近所の方にアピールしていきたい。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の清掃活動に参加したり飯盛神社の季節行事に出向いているまた、正月には地域の青年団による獅子舞の訪問、披露がある。	○	自治会などに働きかけて行事に参加していきたい
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所各職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域、自治会主催の講演会に参加し居宅介護支援、グループホームについての説明を行っている。	○	老人会、自治会に働きかけていきたい

番号	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	月例勉強会、日々のカンファレンスにおいて日常的に説明行っている。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回地域の方ご家族包括支援センターの方に出席していただき話し合いの場を持ちカンファレンス等で報告している。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	2ヶ月に1回運営推進会議を行い話し合いの場を作っている。	○	管理者、職員とも勉強不足の所がある為関連の研修などに参加し実のあるものにしていきたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	外部での研修に参加し得た知識を他の職員にも報告する場を作りご家族に対しても要望あれば説明をしている。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	月例勉強会を実施し説明行い職員間でも注意、指摘し合える関係作りに取り組んでいる。		新聞の切り取りなどをして職員間でも注意している
	4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書に記載し、契約時に十分説明している		

番号	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々、入居者の変化に目を配り日常的に話を聞く機会を作りご家族からの情報収集を行っている。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	季節毎や行事の知らせなどに便りを発行したりご家族への電話報告等を行っている。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	公的な窓口がある事を説明し家族との意見交換を行っている。 また、家族会の開催もしている。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	現場リーダーの意見を聞き 現場の意見もリーダーを通じて取り入れている。		一日の勤務表を
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	支援に即した人数の確保、配置が出来ている。		職員数を4～5人にして 柔軟な対応を行なっている
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	入居者への影響を第一に考え異動の場合は徐々になじんでいけるよう準備を行っている。		
	5. 人材の育成と支援			
19	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の募集、採用にあたっては性別、年齢等を採用対象にしていない。 また、各職員がその能力を活かし職場が自己を表現、アピール出来る場であるよう環境作りに努めている。		

番号	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
20	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	月1回の会議を持ち教育に取り組んでいる。 (人権擁護委員会)		
21	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員ごとに必要とされる外部研修への参加や毎月の院内研修への参加を呼びかけている。		
22	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会に加盟しており協会、市が主催する研修に参加し職員間の交流を行っている。		
23	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	定期的に至っていないが親睦会を開き職員個々の悩みを話す機会を作っている。	○	定期的な親睦会の開催を行う
24	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	施設長やリーダーが日常的に助言や指導を行っており毎月1回ユニット別に勉強会を開いている。		
	Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
25	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	施設長、各職員が目配り、声かけ、気にかかる方には、個別の時間を作り話を聞き関係作りに努めている。		
26	○ 初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	日頃からご家族の意向を開きその意向を反映するようにしている。		

番号	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族と相談を持ちながら必要であれば居宅支援の職員を交えて、必要なサービスを利用出来るよう努める。		デイサービス、ホームヘルパー 宅老所など利用出来るように相談に のっている。
28	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	契約前に見学をしてもらいホームの内容を十分理解してもらえよう事前に説明する機会を作っている。		
	2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
29	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	一緒に食事作りをしたり職員が昔の知識を学んだりしながらその日、その日の生活を共有している。		
30	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	入居者についての情報交換を密にしコミュニケーションをとりながら、ケアにも参加してもらえるよう働きかけている。		
31	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族の面会時は茶袱台でお茶を出したり誕生会等のホームの行事に家族に参加してもらう機会を作っている。		
32	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親類、友人との手紙のやりとりやなじみの場所をたずねる機会を作っている		
33	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	仲の良い入居者同志散歩や家事参加を呼びかけあい入居者同志がかばい合い支え合っている		
34	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退去時には契約事項に添った説明を十分に行い居居後も不安解消の為の相談に応じている。		

番号	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1. 一人ひとりの把握	入居時の面接や入居以降も必要に応じて三団体式のアセスメントを行っている		
35	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思いを優先し出来る限り希望意向を取り入れるよう努めている		日勤者を4～5人して入居者の意向に応じている
36	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりの生活歴を大切にしながら家族からの情報を元にして把握する事の努めている		
37	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一人ひとりが出来る事を出来る範囲で自由に発揮出来るよう支援している		
	2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
38	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	毎月計画作成担当者と受け持ち担当者が介護計画を作成している。面会時等家族と面談する機会を持ち本人家族の意向を取り入れるよう努めている		
39	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	月末にカンファレンスで評価を行い必要に応じて見直し対策を考える。本人家族の意向を聞き入れながら改善している。		
40	○個別の記録と実戦への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一人ひとりのカルテにて日々の変化表情等を記録し各職員が情報を共有出来るようにしている。		

番号	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人家族の要望を聞き外出や個々の趣味などにおける本人らしい時間をすごしてもらえよう支援している。		
	4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
42	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	中学生による職場体験や実務者研修での研修生の受入れ、民謡サークルの開催などを行っている。		
43	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話しあい、他のサービスを利用するための支援をしている	本人や家族の希望に応じてデイケアなどへの参加を支援している。		
44	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	普段より運営推進会議を開催し地域包括支援センターからの出席をしていただく等して連携を取れるようしている		
45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	併設病院、近隣老人施設との交流を積極的に行い説明、情報提供を行っている。		
46	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	併設病院への情報提供を行い必要時の連携、週1回の定期受診を行っている		
47	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	併設病院の看護職員との連絡を密に取っており入居者の健康管理、医療活用に活かしている		

番号	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	併設病院、地域の病院との情報交換を行い退院後の対応を含めた相談をしている。		
49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ターミナルケアを希望する家族には十分な説明を行った上で医師を交え同意書の作成、方針を話し合いマニュアルを作成している。		
50	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	家族の意向を取り入れ職員ができる範囲で具体的な対応策を挙げチームとしての支援ができる体勢をとれるように普段から話し合いを持っている。		
51	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	退院後の不安解消の為相談に応じたり介護添書にて情報を提供している。		
	IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重			
52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者に対し各職員が人生の先輩であるという認識を持ち常に言葉使いや個人情報の取り扱いに配慮している。		飯盛会にて個人情報保護委員会に参加しGHにおいても勉強会を行っている。
53	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	常に傾聴の姿勢で入居者と向かい合いできる範囲で自己決定を促し納得いくまで話し合っている。		
54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者一人ひとりに合ったペースで過ごせるように配慮している。	○	業務に追われがちになっている事もある為入居者を優先する事を意識しケアの中に業務をうまくゆうがいさせたい

番号	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
55	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	好きな洋服を選んでもらったり髪を結ったり髪留めで飾ったりしている。月に1度訪問美容を受けているが希望者は望む店に行けるようにしている		
56	○食事を楽しむことのできる支援 重食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の残存能力に応じて野菜の刻みや盛り付け、味付け、片づけ、など協力して行っている。		献立で嫌いな時は別メニューで行っている。
57	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	嗜好品のビールやお菓子を一緒に買いに出かけ晩酌をする等家庭的な雰囲気作りに心がけている。		
58	○ 気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	必要に応じて排泄表を作り記録する事で排泄リズムをつかみスムーズな排泄誘導が行えるように努力している。		
59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	出来るだけ本人の希望を取り入れ希望の時間に入浴できるよう取り組んでいる拒否が見られる方には声かけ方法やタイミングを計っている。		
60	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	馴染みのある寝具を利用したりホットミルク等飲み物を用意する等して安心してもらえるよう努めている		
	(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	趣味や生活歴を活かし手芸や縫い物、歌を歌うなど、その方に合った楽しみを見つけ支援している		

番号	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
62	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	力に応じて支援しており、所持金に関しては職員がある程度把握し嗜好品の買い物と一緒に出かけている		
63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候の良い日は散歩やドライブにさそったり、希望があれば対応している		
64	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	希望をとって花見や日帰り旅行を企画したり、家族への参加も呼びかけ交流の機会を作っている。		
65	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば家族へ電話をしたり電話を取り次ぐようにしている了承を得た上で手紙や電話のやり取りをしている		
66	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるように工夫している	入居者手作りの手芸品等で玄関を飾り家庭的な和やかな雰囲気を作って出迎えている		
	(4) 安心と安全を支える支援			
67	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修会への参加で得た知識を勉強会で報告し全職員が共有出来るよう努めている		
68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	入居者の状態で現在は施錠しているが希望されればすぐに外出できるようにしている。	○	今後は居室の窓だけでも全開出来るよう対応していきたい
69	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	定期的に方室や声かけをさりげなく行っている。		

番号	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	刃物等は保管位置を決め、安全チェックリストを作成して1日3回チェックを行なうようにしている。		
71	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	マニュアルを作成しており各職員が周知するよう徹底している		
72	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	年に1回消防署主催の応急救護研修を全員受けている。		
73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	毎月防災委員会で意見交換を行いマニュアルに添った避難訓練をしている。		
74	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	面会時や家族の要望に応じて説明を行っている		
	(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
75	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝バイタルチェックを行い日頃から職員に意識を持つよう指導し報告、相談をするようにしている。		
76	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋や薬の説明書をカルテにとじ職員がいつでも確認が出来るようにしている		申し送りを徹底職員一人ひとりが薬の目的、重要性を理解し支援を行っている
77	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	各職員が重要性を理解し水分補給や運動等を意識し行っている。		

番号	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	起床後の洗面時、食後の歯磨き入れ歯の洗浄をしたり声かけにて促している		
79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食後、摂取量のチェックを行っている		
80	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	マニュアルを作成し職員に周知徹底している。		常に新聞や講習会等で得た情報を集収し対策をこうじている
81	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	生鮮食品は必ず冷蔵保存し週に1回冷蔵庫清掃を行っている。調理用具は漂白剤にて消毒を毎日している		
	2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり			
82	○ 安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	アンティークの金魚鉢やたぬきの置物手作りの表札の設置等雰囲気作りに努めている。		
83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者の作った作品を飾ったりソファーに座布団を置くなどの工夫をしている。		
84	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	数名が座れるソファーの設置、円形の食卓テーブル2脚、又テラスにもガーデンテーブル設置している		
85	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人のタンスや仏壇等持ち込んだり御家族の写真を飾ったりしている。		

番号	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
86	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	冬は加湿器をつけ入居者に合わせた室温調節に努めている。 定期的な換気を行っている		
	(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
87	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホールには手すり浴槽には手すりや滑り止めを設置し台所にはIHを採用流し台の高さは入居者に合ったサイズ		安全に生活出来るよう努めている
88	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	常に入居者を視野にいれた観察をその場の状況に応じた発送で混乱が増幅しない介護力UPに努める		
89	○建物の外周リや空間の活用 建物の外周リやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	洗濯物を干したりプランターを置いて植物を育て水やりをする等に活かしている		テーブルや椅子を設置して外でお茶を飲んだり食事をしたり楽しんでいる。

番号	項 目	取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
V サービスの成果に関する項目		
90	○職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	●ほぼ全ての利用者の ●利用者の2／3くらいの ③利用者の1／3くらいの ④ほとんど掴んでいない
91	○利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	●毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
92	○利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	●ほぼ全ての利用者が ②利用者の2／3くらいが ③利用者の1／3くらいが ④ほとんどいない
93	○利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	①ほぼ全ての利用者が ●利用者の2／3くらいが ③利用者の1／3くらいが ④ほとんどいない
94	○利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	●ほぼ全ての利用者が ②利用者の2／3くらいが ③利用者の1／3くらいが ④ほとんどいない
95	○利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	●ほぼ全ての利用者が ②利用者の2／3くらいが ③利用者の1／3くらいが ④ほとんどいない

番号	項 目	取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
96	○利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	●ほぼ全ての利用者が ②利用者の2／3くらいが ③利用者の1／3くらいが ④ほとんど掴んでいない
97	○職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	●ほぼ全ての家族と ②家族の2／3くらいと ③家族の1／3くらいと ④ほとんどできていない
98	○通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ●たまに ④ほとんどない
99	○運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	①大いに増えている ●少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
100	○職員は、生き活きと働いている	●ほぼ全ての職員が ②職員の2／3くらいが ③職員の1／3くらいが ④ほとんどいない
101	○職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	●ほぼ全ての利用者が ②利用者の2／3くらいが ③利用者の1／3くらいが ④ほとんどいない
102	○職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	●ほぼ全ての家族等が ②家族の2／3くらいが ③家族の1／3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

（この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。）

入居者お一人お一人が生き生きとした表情で楽しい生活を送れるよう

職員は日々努力しています。

入居者やご家族のニーズに少しでも応えられるように各職員がその発想を持って競い

アイデアを出し合って試行錯誤をしながら理想のケアに近づくよう頑張っています。

私達職員は、入居者全員の擬居似家族として入居者のご家族、地域社会との橋渡しであり

GHにおいては「黒子」として主役である入居者を支える存在でありたいと思っています。

又、病院が併設されている点でも、入居者の急変時にもいち早い対応ができ、病院の医師、看護師との連携を密にとり、

相談しているため、異変に対しての早期発見、予防へも繋がっていると思います。

さらに、ターミナルケアにおける家族の要望を取り入れ、医師を交えた話し合いをスムーズに進めることができ、

指示の下入居者の終末期をいかに迎えるのかを職員一人一人が考えながら統一されたチームケアを行っています。